

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

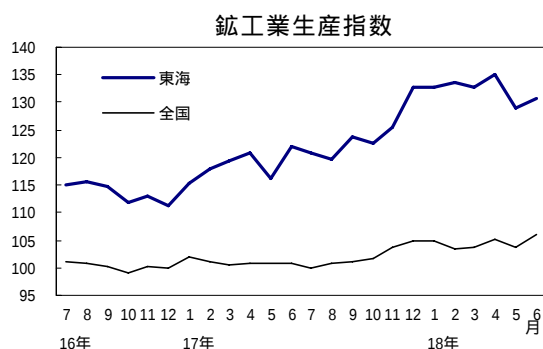
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 5 月）	今回（平成 18 年 8 月）	
住宅建設	増加	大幅に増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けは伸び悩みがみられたものの、海外向けが北米向けを中心に好調だったことや、自動車部品の輸出が好調だったことなどから、高水準で推移している。一般機械は、金属工作機械が国内需要は一般機械向けを中心に、海外需要は北米や欧州向けを中心に好調だったことから、高水準で推移している。電気機械は、内燃機関電装品が自動車関連向けを中心に堅調に推移し、制御機器も、半導体関連向けを中心に好調だったことから、増加している。窯業・土石は、陶磁器が飲食器を中心に低調に推移しているものの、ファインセラミックスが自動車向けを中心に好調だったことなどから、おおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが好調なことなどから、増加している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に好調に推移し、液晶素子も情報通信機器向けに好調だったことなどから、6 四半期ぶりに減少したものの高水準で推移している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成 18 年 6 月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
輸送機械	33.9	7.7	1.1	1.2	▲5.2
一般機械	11.3	4.9	▲0.8	0.4	5.9
電気機械	7.3	1.5	1.3	3.0	2.4
窯業・土石	6.1	▲0.3	1.1	2.5	0.1
化学	5.4	▲1.2	2.2	1.0	▲0.3
鉱工業	100.0	4.7	▲1.1	▲0.9	▲0.1

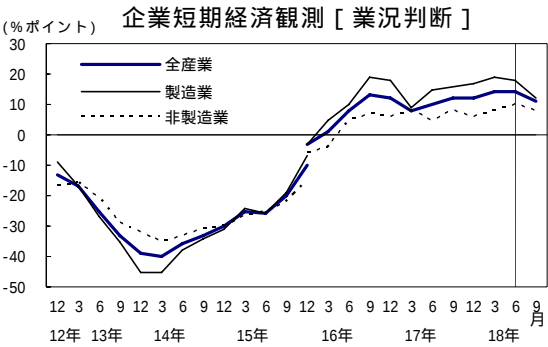
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2. 4～6 月期は速報値。

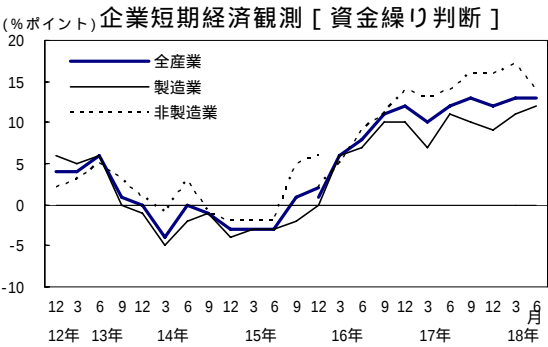
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

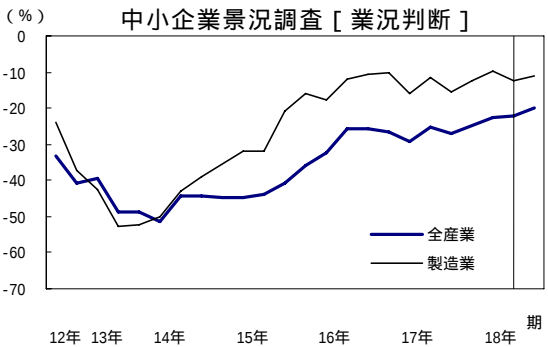
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]

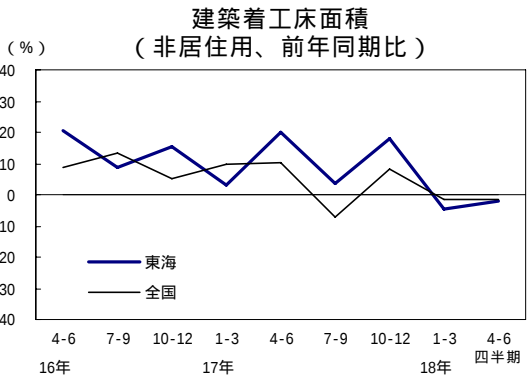
「同業他社との情報交換会では、荷物量が上向いていないということが話題になっている(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	17 年度実績	18 年度計画
全 産 業	15.0 [17.3]	14.1 [8.1]
製 造 業	28.1 [25.7]	5.6 [4.1]
非 製 造 業	▲ 0.9 [6.9]	27.4 [13.8]

(備考)[]は前回 (3 月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

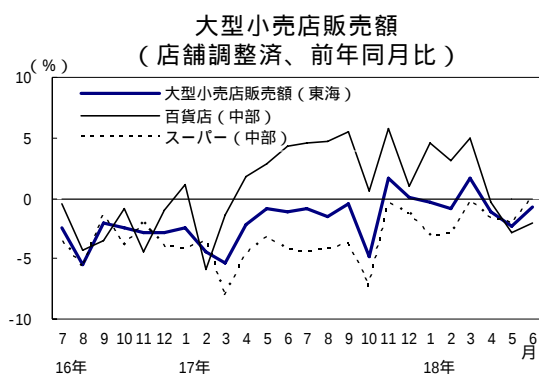
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は一般的に天候不順で特に春・夏物衣料品の販売が振るわなかったことなどから、13か月ぶりに前年を下回った。5月は、「母の日」関連商品やクールビズが好調だったものの、GW後の長雨が影響し、客足が鈍く、特に夏物衣料品が不調だったことなどから、前年を下回った。6月は、高温多雨の中、ワンピースなどの夏物衣料品や、時計や宝飾品などの高額商品が動きをみせたものの、愛知万博の売上減を補えず、3か月連続で前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の7月の売上高は、前年同月比で2.7%減となっている。スーパーは、飲食料品が6月に前年を上回ったものの、衣料品が振るわず全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「洗剤などの消耗品は売れているが、天候不順によりビールや清涼飲料水の売上は伸び悩んでいる。夏物商材の売行きは先月より少し鈍く、客は買い控えをしている(一般小売店[贈答品])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

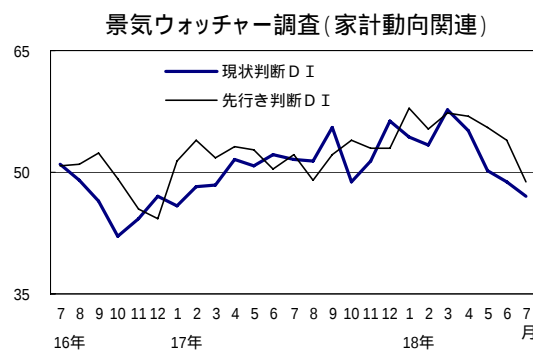
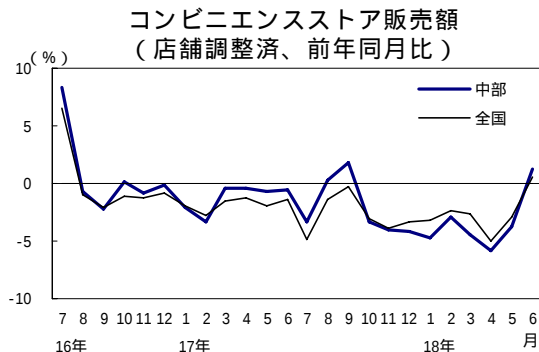


	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	▲1.0	▲1.0	0.1	▲1.4
百貨店	4.9	2.3	4.3	▲1.7
スーパー	▲4.2	▲3.0	▲2.2	▲1.2
コンビニ	▲0.5	▲3.9	▲4.0	▲2.8
景気ウォッチャー	52.8	52.2	55.1	51.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

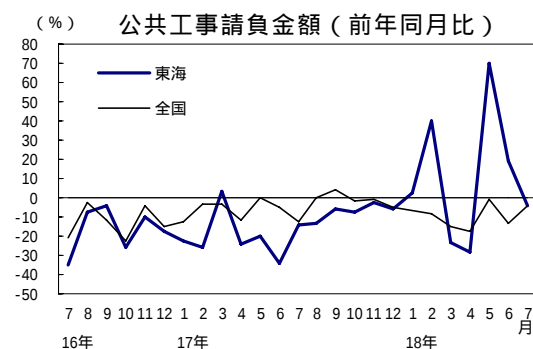
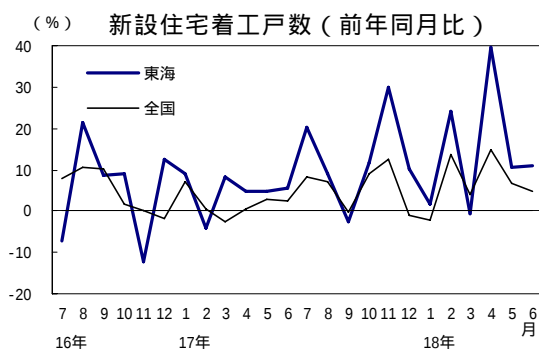
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

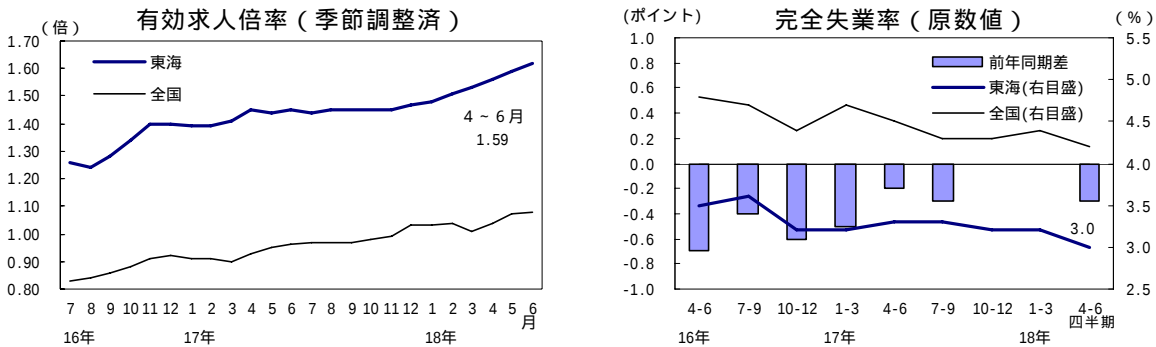
持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

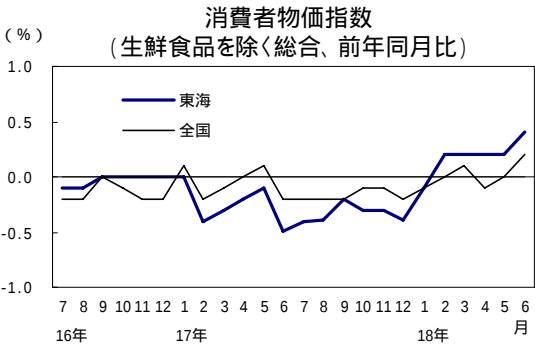


景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]
「求人数は全体的には堅調に推移している。ただし営業職と技術職が多い正社員求人は技能が必要であり相変わらずの求人難である。技能が必要でない流通、サービス、飲食関連の職種は、パート、アルバイトなどが中心である(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	301	342	309	300	89
(前年比)	3.8	5.2	▲7.2	▲12.8	▲3.3
負債総額	1,308	1,470	1,001	1,392	256
(前年比)	22.4	▲53.2	▲59.6	▲16.0	▲10.4



- 景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]
- <現状>
- ・投資ファンド系による賃貸マンションの建設がおう盛である。また、工作機械製造や自動車製造関連企業の工場、オフィスなどの設備投資も多い(住関連専門店)
- <先行き>
- ・婦人服を中心に初秋物の販売がスタートしているが、出足は好調であり、今後に向けての手ごたえがある(百貨店)

